

学校教育課だより

かけはし

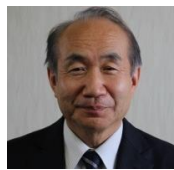


学校教育課だより
「かけはし」
【第 9 号】
平成30年
1月24日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

幸福で、満ち足りた、陽気な日本人

明治維新百五十年を考える

教育長 勝又 将雄



◇新年、あけましておめでとうございませう。今年は「戌年」。いよいよ平成三十年のスタートです。慌ただしい年末年始の休暇ではありましたが家庭生活で心身をリフレッシュできたでしょうか。様々な思いを抱いて新年を迎えたものと推測します。「日々新」の日常生活の積み重ねの先に見える「新しい自分・世界」を思っています。今年もよろしくお願いいいたします。

◇どこかで「明治維新百五十年を考える」的な話を聞いたり読んだりすることがあると思います。今年がその年となる

ります。一八六八年の明治維新を意識して、幕末から明治にかけての日本、及び日本人の姿を取り上げ、現在との違いを「なぜ？」的な論考展開しているものもあります。中でも当時の外国人の見た日本及び日本人に対する文章に驚かされるのが多々あります。すでに時代は流れて明治生まれの人々はほとんどこの世から消えつつあります。明治最後の生まれの方であっても百五歳となるわけですから、当然と言えば当然です。しかし、そうした現実を直視する中でも、残念ながら、「明治

「大正」「昭和」の元号の当時世相を振り返ることはなく、自分の体験から勝手に他界している明治生まれの祖父母との会話に、そうした現在との比較を意識するようなこともなかつたように思います。にもかかわらず、「なぜ今、幕末明治」なのか。(この百五十年で、日本人そのものの氣質が変わってしまったのか)という疑問が生じるほどの変化を見て取れることがあるからです。幕末・明治維新のころの日本及び日本人は、「幸福で満ち足りた、陽気な日本人」として外国人の眼には映って

いました。来日した外国人たちは様々な書物、文章を残しています。そこには驚くような表現がなされています。誰の顔にも陽気な性格の特徴である幸福感、満足感、そして機嫌の良さがありありと現れていて、その場所の雰囲気にとびつたりと融けあつて。絶えずしゃべり続け、笑いかけている。この民族は笑い上戸で心の底まで陽気である。一人、二人の特別な人の存在ではありません。当時の日本及び日本人を描いた大方のものにこうした文章、表現があります。「日本には貧乏人、貧困がない」という記述もあります。正確に言えば「貧乏人はいるが、貧困はない」ということでしょうが、身分を超えて、「格差」を感じていないことは事実だと思えます。「一汁一菜」の食事に上下格差がない日本社会と言えます。それが、現代社会では電車の中ではスマホを黙々といじっているか、不機嫌そうな顔つきで虚脱している姿がほとんどです。仕事に、生活に疲れているのでしようか…。とても「幸せそう」には見えません。



読書をしている人の時折見せる顔の表情に面白い話かな、悲しい話かなという想像も生まれましたが、今は疲労困憊の姿以外ないような気がします。さてさて、百五十年前とのこの違いは何なのでしようか…。
そもそも、「幸福で、満ち足りた、陽気な日本人」となるような教育とはどんな教育なのでしようか。新しい年にこんなことをあれこれ考えているうちに三学期がスタートしています。新三学期制への移行によるその学校らしい、その学級らしい「締めくくり」を意識した年度末の教育活動に大いに期待しています。今年もよろしくお願いいいたします。

今こそ、皆で働き方改革を！

「運転を始めてから2時間が経過しました。休憩をとりますよ。」

車のナビが声を掛けてくれます。せつかく忠告してくれたいにも関わらず、目的地まで早くたどり着きたいという気持ちで勝り、運転し続けてしまいます。目的があると人間はついつい頑張ってしまう。だから、コンピュータに制御してもらおうぐらいがちょうど良いのかもしれない。

最近、教育新聞や雑誌等で「学校における働き方改革」「教員の多忙化解消」「長時間労働是正」「業務内容・量の見直し」「ブランク部活動」などといったタイトルをよく目にするようになりました。

今、この大きなうねりを創り出しているのが、中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」です。昨年の七月に発足した部会が第三回（八月二十九日）の会合で「学校における働き方改革緊急提言」、十二月二十二日には、中教審において「学校における働き方改革に関する総合的な

方策（中間まとめ）」と次々にまとめられました。それを受けて十二月二十六日、文科省が「学校における働き方改革に関する緊急対策」を公表するなど、非常にスピーディーな展開からは、関係者の緊急性や本気度の高さがうかがえます。

「中間まとめ」においては、
○学校・教師が担う業務の明確化を通じた役割分担と業務の適正化

○学校が作成する計画等の見直し

○学校の組織運営体制の在り方

○勤務時間に関する意識改革と制度的措置

○学校における働き方改革の実現に向けた環境整備

という観点において、取り組むべき具体的な方策が示されています。その根底にある理念が「中間まとめ」の『はじめに』に次のように記されています。※抜粋

文部科学省においては、早急に緊急対策をまとめ、実行に移し、教師が疲労や心理的負担を過度に蓄積して心身の健康を損なうことのないよう、長時間勤務の是正に向けて勤

務環境を整備するとともに、教師が、研さんや授業準備等の時間を確実に確保し、限られた時間で授業をはじめとした学習指導、学級担任等の学級経営、生徒指導等をこれまでに以上に効果的に行うことができる環境を確実に整備することを期待する。（中略）

長時間勤務を良しとする、これまでの働き方を見直し、教師が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性を高め、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになる

という、今回の働き方改革の目指す理念を共有しながら、取組を直ちに実行することを期待する。

『二十四時間戦えますか』というフレーズとともに栄養ドリンクを飲んででも頑張らなくてはいけないんだ！という時代からはや三十年。

学校が魅力ある職場となり、教師を目指す優秀な若者を増やすためには、今まで二十四時間戦ってきた先生方が、ちよつと意識を変える必要があります。それも組織全体で…コンピュータで制御されてしまう前に、自ら働き方改革

を楽しんでみませんか？

【主席指導主事

渡辺 英一郎】



教師力向上講座 『架け橋』

『架け橋』

「第5回教師力向上講座『架け橋』では、御殿場市立高根小学校教諭 横山 瑞枝先生による講義・演習を行いました。内容は『特別の教科道徳』への試み」です。

講義では、導入・展開・終末等で使いたい発問例等を示しながら、「考え、議論する道徳」の姿を具体的に説明してくださいました。また、実習の場面では、高根小が活用している資料分析シートを使っ

て中心発問を考え合いました。どの参加者も、子どもの姿を思い描きながら、とても熱心に楽しく話し合っていました。

ていますが、授業の組み立て方や中心発問等、今後のヒントになる内容がぎゅっとつまっていました。資料分析シートを実際に使ってみると、主人公の心情や本心に伝えたい価値が見えてきたように思います。教師がどれだけ資料を分析して深く読み取っているかが授業の良し悪しを決めると改めて感じました。

これは、ある参加者の感想です。横山先生からいただいた「自由な発想で」「失敗を恐れずにチャレンジ」等の言葉を励みとし、子どもと一緒に楽しみながら授業をつくっていくことと思います。

【指導主事 丹澤謹志】

